

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』連載第3回

これが革マル派の運転士狩りだ!

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月31日発売号>

「警視庁での取り調べ一部始終」

'02年11月、東京・霞が関にある警視庁本庁15階、公安部の一室。「これであなたには、9回、ご足労いただいたが、われわれが求めた資料は、ほとんど提出する気がないことが、よく分かりました。『普通会社』なら、責任者が9回も来て、警察が求める資料を提出しないことなど、ありえません。あなたがこれまで、われわれに話してきたことは『革マル派』の言い分とまったく同じです。これ以上、話しても時間の無駄のようですね……」

警視庁公安部の捜査員は、正面に座る、JR東日本の佐々木信幸のぶゆき人事部長(当時=現在は代表取締役副社長・事業創造本部長、58歳)の目を見据え、こう言ったという。そして、次のように続けた。「これまで諸事情を勘案し、資料を任意で提出していただけたようお願いしてきました。しかし、あなたの会社では、無理なようだ」と、捜査員は一方的に通告し、JR東日本との“交渉”を打ち切った。

'02年11月1日、警視庁公安部は、JR東労組大宮地本・梁次やなじ邦夫副委員長ら組合員7人を逮捕した。梁次は革マル派の幹部でもある。JR東労組は、JR東日本の最大・主要労組。梁次らの容疑は、浦和電車区の若手運転士に、退職を強要したというもの(強要罪・刑法第223条)だ。この事件は現在も公判中で、「浦和電車区脱退・退職強要事件」(以下「浦和事件」と略)と呼ばれている。

私は前号(8月5日号)で、JR東日本の現役社員で、元運転士の佐藤久雄さん(49歳)が決死の覚悟で行った内部告発を紹介した。・・・驚くべきことだが、JR東労組組合員による“運転士狩り”の被害者は、佐藤氏だけではなかった。これからレポートする浦和事件では、当時27歳だった若手運転士が、革マル派の陰惨な嫌がらせにより、組合を強制的に脱退させられただけでなく、会社を退職するまで追い込まれているのだ。

警視庁は、この浦和事件を突破口に、「JR革マル派問題」に切り込んだ。警視庁が狙うのは、JR東労組の上部団体である『JR総連』(全日本鉄道労働組合総連合会)の絶対権力者で、JR東日本の支配者である「革マル派最高幹部」松崎明氏(70歳・以下、敬称略)による「組合費私的流用疑惑」である。この疑惑を解明する捜査は、今も水面下で続けられている。三鷹駅への異動を命じる。そして、いじめを行ったケースは数多くある。'01年には、浦和電車区で、当時27歳の青年運転士が、革マル派活動家を含むJR東労組組合員から、約3ヵ月にわたって脅迫を受け続け、組合を脱退し、最終的に退職にまで追い込まれた。後に「浦和電車区退職強要事件」として刑事事件化したこの問題については、稿を改め詳報するが、JR東日本経営陣はいったい、元運転士で、現役社員である佐藤氏の“捨て身の告発”をどう受け止めるのか。

